

今日のみ言葉 239 「英知と力は神のもの」 2014. 6. 11

神の御名をたたえよ。世々としえに。 英知と力は神のもの。 (ダニエル書2の20)

Praise be to the name of God for ever and ever; wisdom and power are his .

「英知と力」—私たちは、この二つを求めている。なぜ、この世にはさまざまの苦しみや悲しみがあるのか、なぜある人々には途方もない苦難が襲って、ある人々には平和な日々が続くのか。あるいは、人柄もよく、仕事もできるかけがえのないような人が突然の事故、病気で短命で召されていく。他方、不信実な人間、悪をなしているように見える人が元気で長生きしている…。

すべてが謎のようなこの世界にあって、その不可解な現実には深く打ちのめされる場合もある。そして、病気や事故による体の重い障がいや長く続くときには、神などいるのか、と信仰を持っていた人でもその現実に直面して苦しむ。しかし、そこに神からの英知が与えられ、そうした不可解な現実の背後の神の御計画を示されるとき、私たちの魂はようやく安らぎを得る。

それとともにその厳しい、ときには耐えがたい現実に耐えていく力をも与えられる。さまざまの苦難、悲しみ、敵意や憎しみによって苦しめられても、なおも神を信じて歩み続けることができた人たちも歴史上では無数に存在してきた。そのような人達は、神からの英知と力を与えられたからであった。

そうした英知は、人間の救いに直接的につながっているゆえ、そして求めるものは誰にでも与えられるゆえに、この世の学問や経験的知識等々より以上に価値あるものである。

そのような英知は、何が与えるのか。神から来る聖なる霊である。

ゆえに、主イエスはその死の前夜の最後の夕食のときの教えにおいて、次のように語られた。(ヨハネ福音書14の27、16の13)

…聖霊が、あなた方にすべてのことを教え、私が命じたことをことごとく思い起こさせてくださる。

…真理の霊(聖霊)が来ると、あなた方を導いて、真理をことごとく悟らせる。

使徒たちは聖霊によって力を得て、キリストの復活を証言することができるようになった。そして、イエスの十字架の死は、単なる処刑でなく、万人の罪を担って身代わりに死なれたこと、それを信じるだけで、私たちの罪が赦されるということも、イエスの死後、聖霊によって教えられ、悟ったのである。

そして、私たちの心や社会のあらゆる問題の根源にある悪そのものは、時至れば必ず滅びることも、やはり聖霊によって教えられ、悟るようになる。

聖書は、単に、人間の意見や思想、あるいは経験を書いたものでなく、万物を創造し、永遠に存在しておられる正義と真実な神のご意志が記されているのだ、ということもまた、学問や経験では分からない。このこと自体も聖霊によって教えられて初めて徐々に分かってくることである。

英知とは、単なる知識でなく、愛の神がおられ、死にうち勝つ力が存在すること、ただキリストを仰ぐだけで罪赦されること、万物の背後に神がおられ、支えておられること…等々、こうした目には見えないものこそ本当に大切なものだというのを洞察する力である。そしてそのような英知と力は、生まれつき持っている人はおらず、神のものであるゆえ、だれでも心から神を信じて求めることによって与えられる。ここに、この不平等極まりないような世界にあって、驚くべき平等性があるのがわかる。私たちも神の英知そのものであるキリスト (I コリント 1 の24) を信じて歩みを続けていきたいと願うものである。



シャクナゲの仲間は、いろいろとあり、日本の各地で見られるものでツツジの仲間です。私の住む徳島県でも、山地でシャクナゲの自生に出逢うこともあります。その自生地として知られている1000mを越える山に登っても個体数はごくわずかです。

それに対して、このハクサンシャクナゲ(*)は、本州中部地方から北や北海道などで生育し、秋田駒ヶ岳や大雪山、福島県の吾妻連峰などにはよく見られ、秋田駒ヶ岳の一つの登山ルートは、とくに多く、シャクナゲコースと言われているほどです。

ハクサンシャクナゲは写真のように、つぼみのときには、淡紅色ですが、花が開くとともに白い花びらとなっていくのが多いのですが、淡紅色の色の強いのと白色のものまでいろいろと見られます。

(*) この名前にある白山とは、石川県と岐阜県にまたがる山。標高2,702m。白山は有名な山で多くの人が登り接することも多かったので、ハクサンのついた高山植物は、ハクサンチドリ、ハクサンシャジンなど10種ほどもある。

半年も雪に覆われ、風雪の厳しい北国の高山は植物の生育には困難と思われるにもかかわらず、そのようなところにかえてこのような美しい花々が、多く見られるのは暗示的です。

精神的な世界においても、さまざまの厳しい試練をくぐり抜け、それに耐えてなお道を踏みまちがうことなく、真実なものを目指して歩いていった人たちは、彼等の心の世界にこのような清くて美しい世界が開けていったものと思われます。

魂の目というべきもので見ることでできるものがこの世には確かに存在しているからです。

最初のキリスト教徒の殉教者として知られるステファノは、彼が真理を語ったゆえに憎まれ、多くの人から石を投げつけられて絶命しましたが、そのような危険な状態にあるとき、天が開けてイエスが神の右に立っておられるのが見えたと言われています。

神の国とは最も清く美しい国、そこに咲いている完全な花こそ復活のキリストですが、そのようなものが、苦難のただなかで心の内に示されたのです。

私たちも自分中心に生きていだけなら、平地には雑草といわれるものが多く美しい花にはなかなか接することができないように、そうした清い世界が心に開けるのは難しいと思われます。他方、高い目標—キリストや神の国を見つめ、日々の汚れを主によって赦され、清められつつ歩みを進めるときには、神は必要なときにこうした美しい花々に相当するものを見させてくださると信じていることができます。「求めよ、そうすれば与えられる」と主イエスが約束されているからです。

(文、写真 T. YOSHIMURA)